

希学園 第402回 小2公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第402回公開テスト 小2国語 解説動画(2025年11月9日実施)	https://vimeo.com/1134860420/b59ade00e5

① 手下
② 王女
③ 雨上
が

④ じんせい
⑤ きゅうじつ

② パン子ちゃんをたすけ

② ア
④ ウ
⑤ ア
⑥ ウ
③ パンダ

(5 完答)

③ ゆ
② は
③ う
④ き
⑤ く
⑥ あ

④ エ
③ エ
① エ
② イ
④ ア
② 2
① 1
② ウ
② 2

配 点	
①	各2点× 5 = 10点
②~④	各5点× 18 = 90点
<計> 100点	

① ①「手下」はめいれいされたとおりにする人のこと。②「女」の音読みには「ジョ」と「ニョ」がある。「女房」のようにとくべつに「ニョウ」とよむこともある。③「雨上がり」は「雨がやんだあと」という意味である。④「人」の音読みには「ジン」と「ニン」が、「生」の音読みには「セイ」と「ショウ」がある。⑤「日」の音読みには「ジツ」と「ニチ」がある。

② 香桃もこ『まかせて、パン子ちゃん』より（問題作成の都合上表現を一部改めています）

1 「ぼく」がいま何をしようとしているか、ということである。はじめに通して読んだときにわかっておきたい。四行あとに「パン子ちゃんを救わなければ」とあるが、うまく空らんにあてはまらないので、同じような意味のところをさがす。

2 すぐうしろに「ああ、なんておいしそうなおい」と書かれている。「よだれが出る」は、ひどくほしがるようすをあらわすことばである。

3・4 ぼくは③なので、「そのまま通り過ぎるのは」むずかしいといっている文である。すぐまえの文で、竹やタケノコのことを「ああ、なんておいしそうなおい」といっている。また、すぐうしろには「だめだだめだ、パン子ちゃんを救わなければ。ぼくはゆうわくに負けず……」とある。まとめると、ぼくは③だから、タケノコを食べたいのだけれど、がまんしてパン子ちゃんを救いにいくといっているのである。

5 「もぐもぐ」は口をちゃんと開けないでものを食べたりしゃべったりするようす。「もこもこ」はふくらんでいるようすやわらかいものがつきつきにあらわれてくるようす。「しゃきしゃき」は食べ物をかんだときの歯ごたえがいいようすをあらわす。これにたいして「じゃきじゃき」は砂や卵のからをかんでいるときのようないやなかんじをあらわす。

6 「じっくり味わっているぼくの耳もとで、うるさいシカとカピバラが文句をいう」という一文である。ここで「ぼく」が「味わっている」のは、「シカとカピバラから」「うばい取った」「竹」である。

③ 「○○り」のかたちでものごとのようすをあらわすことばはたくさんある。文章の中で見かけることがあったら、どんなようすがかいしておきたい。

① 「ゆったり」は、ゆとりがあって、のんびりおちついていようす。

②・⑤ 「はつきり」と「くつきり」は少しにているが、「くつきり」は見たかんじにつかうことばである。

③ 「うっとり」はうつくしいものを見たりしていきもちになっているようす。

④ 「きつぱり」は言ったりししたりすることがはつきりしていて、かんちがいされることがないようす。

⑥ 「あつさり」は色や味、性格などがしつこくないようす。「こってりした味」というと「あつさりした味」のほぼ反対の意味になる。

④ 埴沙萌『サボテンのふしぎ』より

1 「四季」は「春」「夏」「秋」「冬」の四つの季節のことである。季節ごとに、その季節ならではの花や動物、行事などがあるので、知っておきたい。「あじさい」は梅雨のころ、つまり夏の花になる。春の花にはほかに「うめ」「もも」「たんぽぽ」「なのはな」などがある。夏の花にはほかに、「ばら」「ぼたん」「ゆり」などがある。秋の花にはほかに「コスモス」「ききょう」「おみなえし」などがある。冬の花は少ないが「さざんか」「すいせん」などがある。

2 ③のほうがわかりやすい。「まえの③のときにくきにためておいた水分」ということは、水のあるときなので「雨期」が入るだろう。だとすると、②は「かんそう期」でないとおかしい。

3 「そして」は、順に何かが起こったり何かをしたりするときにつかわれることばである。「しかし」は、それまでと反対のこと、意外なことをつづけて書くときにつかうことばである。「だから」は、そのぎやくで、とうぜんのないようがつづくときにつかわれる。「ただし」は「しかし」とにているが、あとからじょうけんなどをつけくわえるときにつかわれる。

4 アについて。「サボテンのはえているさばくには四季がない」というのは正しいし、「一年じゅうサボテンの花がさいている」もまちがいはないが、「四季がないため」「一年じゅう花がさ」くわけではない。イについて。「日がかげつてくると、（花は）とじてしま」うのだから、夜には「花をとじている」はずである。ウについて。「土地によってかんそう期がちがう」も「サボテンはすべてあざやかな花をさかせる」も正しいが、「かんそう期がちがう」から「あざやかな花」がさくわけではない。